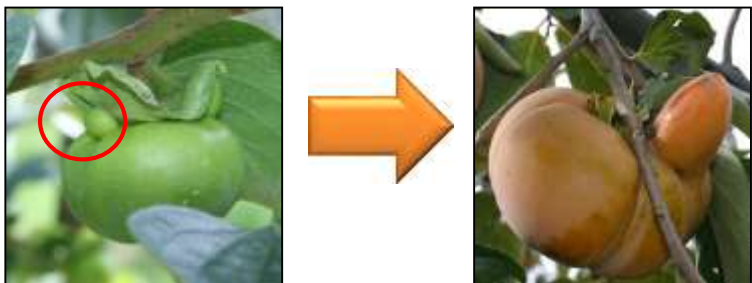


カキ ‘太天’ の摘果時期の違いと果実品質

摘果時期が遅くなっても障害果(ヘタスキ、条紋)の発生は増加せず、翌年の着花にも影響しない

1 奇形果の除去が正品率向上には重要

摘果時期は遅い方が果形の見極めには有利だが、果実品質、障害果の発生、翌年の着花への影響が懸念される。

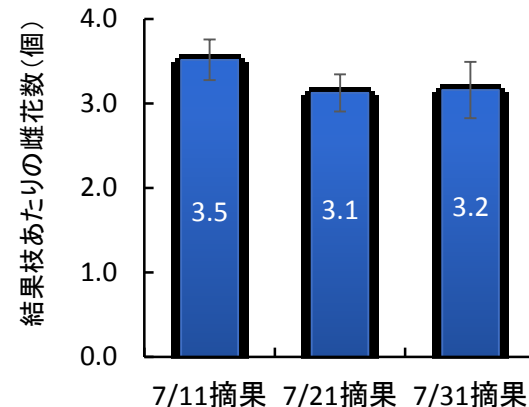


2 障害果の発生度合い、翌年の着花性

試験区	ヘタスキ ^{z)}	条紋 ^{z)}
7/11摘果	30.4	4.7
7/21摘果	32.2	7.8
7/31摘果	32.4	8.7
有意性 ^{y)}	ns	ns

^{y)}分散分析

^{z)}発生度合いは各障害の程度を区分して求めた数値



摘果時期の違いが翌年の着花性に及ぼす影響(2015)

3 果実品質(2014年)

試験区	果実重(g)	着色 ^{z)} (cc)	果肉硬度(kg)	糖度(°Brix)
7/11摘果	694	4.5	0.7	14.9
7/21摘果	663	4.4	0.7	14.8
7/31摘果	635	4.5	0.7	15.4
有意性 ^{y)}	ns	ns	ns	ns

^{y)}分散分析 ^{z)}農林水産省カキ用カラーチャート

4 まとめ

太天の摘果は果形の良し悪しが見極めやすくなる7月下旬頃から取り掛かるのが良い。

7月下旬の摘果でも果実品質や障害果の発生度合い、翌年の着花性に影響は見られない。